

令和3年度第3回小田原市総合教育会議 会議録

1 日時 令和4年1月26日(水)午前9時30分～午前11時17分
場所 小田原市役所 3階 議会全員協議会室

2 出席者の氏名

守屋 輝彦(市長)
柳下 正祐(教育長)
吉田 眞理(教育長職務代理者)
益田 麻衣子(教育委員)
井上 孝男(教育委員)
菱木 俊匡(教育委員)

3 説明等のため出席した職員の氏名

理事・教育部長	北村 洋子
教育部副部長	飯田 義一
教育総務課長	下澤 伸也
学校安全課長	鈴木 一彰
学校施設担当課長	志村 康次
教育指導課長	高田 秀樹
文化政策課長	諏訪部 澄佳
生涯学習課長	湯浅 浩
図書館長	佐次 安一
スポーツ課長	澤地 和之
青少年課長	菊地 映江
教育総務課副課長(総務係長事務取扱)	府川 雅彦
学校安全課副課長(保健係長事務取扱)	武井 和人

(事務局)

教育総務課主査	菊川 香織
---------	-------

5 議題

(1) 小田原市教育大綱(改定素案)について

6 議事等の概要

○教育部副部長 定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第3回小田原市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます教育部の飯田でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、早速、会議に入らせていただきます。

初めに、守屋市長から御挨拶を申し上げます。

○守屋市長 改めましておはようございます。今年度第3回総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、菱木委員におかれましては今回が初参加ということですので是非御指導いただければと思います。

御案内のように1月21日から2月13日までまん延防止等重点措置区域が本県全市町村に発令され、さらに34都道府県ということで、ほぼ全国がオミクロン株との闘いの状況だと思っています。そのような中、感染防止のため換気を取らせていただいで、窓側の席の方は寒いかもしれませんが、適宜体温調節をしていただきながら、感染防止に注意して会議を進めたいと思います。

今も打合せをしていましたが、オミクロン株の特徴は非常に感染力が強く、しかも感染が早いということ。一方で重症化リスクが少ないと言われていて、本市内の様々な感染の動向、ベッドの使用状況を見ても傾向は読み取れるかなと思っておりませんが、特に子供児童生徒に関する感染が増えています。これは明らかにデルタ株と違っていているということで、本市内の小中学校によっては学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖等の措置が取られております。幸いにしてそれが大きな本人の健康被害につながっているという報告はありませんが、ここは学校における感染防止対策は徹底している上で家庭内感染等の状況も踏まえながら、このような状況下の中で子供たちに対して学びの環境を整えていくのかというのは大きな対策の一つだと思います。昨年8月に第5波と言われるデルタ株がはやって、9月からの学校再開をどうしようかということで、教育委員会でも現場の方、保護者と調整をしながら様々な処置をしてきたんだということで承知しております。

登校を控える児童生徒に対する対応はもとより、給食に不安を抱える児童生徒に対する対応がとられていて、そしてまたデジタル化の進展によって児童生徒へのタブレットの配布貸出し、自宅に通信環境のない子供たちに対する貸与などできるだけ対応をして、このような状況下であっても学びの環境を整えるということは、いろいろな知見を積み重ねてきたのだと思いますので是非そこら辺をもう一步踏み込むようなことも考えていかなければならない局面かと思っています。コロナというリスクはもちろんピンチですが、いろいろなことを考え直す良いきっかけと捉えることもできるかなと思いますので、今一度そこら辺の整えをしていかなければならないと思っておりますが、今日の総合教育会議の議題は、お手元に次第が配布されておりますとおり、小田原市教育大綱の改定素案ということで前回に引き続き御議論いただく予定となっておりますが、正にそうしたことも踏まえてこれからの小田原の教育をどうしていくのかという、いよいよ取りまとめる段階に来ているのかなと思いますので、是非前回の議論を振り返りながら議論を進めていきたいと思っておりますので、きたんのない意見を賜りますようお願いいたします。

○教育部副部長 市長、ありがとうございました。

本日は、菱木委員が初めて総合教育会議に御出席いただいたおりましたので、一言御挨拶をいただければと思います。

○菱木委員 市長、委員の皆さま、市役所職員の皆様おはようございます。昨年の10月に教育委員に就任させていただきました菱木でございます。初めは医師会長から就任する時に「気楽に発言してこい」と言われ、お引き受けしたのですが、後日広報に私の写真が載ったら突然、小学校の恩師から「教育委員おめでとう」と電話がかかってきて、中学と高校の恩師からは10年ぶりに年賀状が来て、「教育委員おめでとう。非常に誉れ高いことである。恩師としては教師冥利に尽きる」という言葉までいただきまして、教育委員になったことの

重大性を知り、今頃になってプレッシャーを感じているところです。医師として科学的な発言を求められた際には、さらに頑張って発言していきたいと思えます。よろしく願います。

○教育部副部長 ありがとうございます。

それでは、議題に入らせていただきます。議事進行につきましては、守屋市長にお願いいたします。

○守屋市長 それでは早速ですが議題に入らせていただきます。

まず、「議題（１）小田原市教育大綱（改定素案）について」でございます。

事務局から資料の説明をお願いします。

○教育総務課長 それでは、私から御説明いたします。

はじめに、本日の資料の構成について説明いたします。資料１から資料５まで用意しておりますが、はじめに資料１ 第２回以降の重点方針の修正箇所を１枚にまとめたものがございます。資料２につきましては、第２回総合教育会議でいただいた御意見とその対応を一覧にしたものがございます。資料３は今回修正した箇所を下線で示しており、現段階での改定素案となっております。資料４も同じく改定の素案ですが、修正箇所を見え消しにしております。現在の教育大綱をベースに、赤字が第２回会議でお示した修正箇所、さらにそこを修正した箇所もございます。網掛けが今回の修正箇所となっております。資料５は今後のスケジュール（案）となっております。

それでは、改定素案について御説明させていただきます

資料１を御覧ください。第２回の会議から大きく修正いたしました箇所について御説明いたします。第２回の会議の中で、現大綱の「豊かな心」にある多様性の視点を「生きる力」に移行すると御説明させていただきましたが、教育の目標としては、知・徳・体の調和のとれた発達を基本としており、徳育としての「豊かな心」の育成には、芸術・文化から受ける感動する心だけではなく、徳としての豊かな情操と道徳心も含まれるということを整理いたしまして、多様性の視点及び人権教育の推進の項目について「豊かな心」に戻すという形で整理をいたしました。

また、前回「生きる力」に追加した「情報モラル教育の推進」については、一部人権教育に含まれるものと整理して、独立した項目としては削除いたしました。合わせて、削除した項目に、「情報活用能力の育成」という表現がありましたが、これについては「豊かな心」ではなく、１番目の重点方針「学ぶ力」の中に「情報化やグローバル化が急速に進む社会に対応できるひとを育てる」という表現がありますので、そちらで読み込むという整理をしました。

次に、ただ今御説明したとおり、多様性の視点と人権教育を移行した後の、重点方針「生きる力」については、子供の主体性を身に付けることや、ひとやもの、様々な出来事との関わり合いについての項目とするという整理をいたしまして、名称を「関わる力」に改めさせていただきました。

次に、前回の会議でいただいた御意見とその対応について御説明しますので、資料２と資料４とを並べて御覧いただきたいと存じます。

はじめに、基本目標に関する御意見です。

資料４ １ページ目上段「一人ひとりの命を尊重し、豊かに伸ばすひとづくり」についての御意見が１点です。２項目目１行目の終わりから「保護者が家庭で規範意識を育てるとともに」という記載がありますが、規範意識は家庭だけで育てるものではなく、違和感があると

いう御意見がありました。「家庭や地域全体で生活習慣・礼儀作法をはじめとする生活力を育むため、」として、「家庭や地域全体」という表現に改めたほか、文章全体を整えたものでございます。

次に、資料4 2ページ上段の「多様性を認め、生かしていく教育のまちづくり」につきまして2点の御意見がございました。初めに2項目目1行目の終わりに「児童生徒」という表現がございましたが、「子ども」を使用した方が広くなる、という御意見については、「子ども」に修正しました。もう1点、国際化・グローバル化が進んでいく中、小田原の歴史や文化をきちんと理解すること、自国の文化の理解なしに他国の文化は理解できない、という御意見でした。これについては、2ページの上段の囲みの中の文章2行目から「豊かな歴史・文化・自然に恵まれた小田原の資源を教育に生かし、社会力を育む小田原の地ならではの教育スタイルを確立します」という表現の中に、御意見の趣旨が含まれていると考えており、これについては、文章の修正はしておりません。

次に資料4 2ページ下段「生涯学び、活躍する社会を築く環境づくり」については1点御意見がございました。「スポーツ施設のあり方を検討し、整備を進める」とありましたが、具体的なものが示されれば、よりスポーツ振興が図られるのではないかと御意見をいただきました。これについては、具体的な施策については、今後、教育振興基本計画の中で検討していきたいと考えており、文章の修正はありません。

次に、重点方針に関する御意見でございます。

資料4の4ページ中段に「家庭教育支援」について1点の御意見をいただきました。「幼児教育・保育」だけでなく、「家庭教育支援」においても、幼稚園・保育所の時の家庭に対する働きが大事であるという御意見でした。これにつきましては、最後の項目に、「乳幼児期からの親子の育ちを支える環境づくりを推進します」として、「乳幼児期からの」という表現を加えました。

資料2の裏面を御覧ください。

資料4 4ページ下段の「幼児教育・保育」に関して2点の御意見がございました。まずは、囲みの中の文章ですが、「自己肯定感を育み」とあったのを「主体性を育み」に変更しましたが、これらはいずれも大切に補い合うもので、並列に記載すると良いとの御意見がございましたので、御意見のとおり、「子どもたちの自己肯定感や主体性を育み」に修正しました。

もう1点、3項目目「民間の幼稚園・保育所等との適切な役割分担」とありましたが、役割分担というとお互いに分けてしまうという感じが強いので、「連携」という言葉を加えた方が良いとの御意見でしたので、御意見のとおり、「連携及び適切な役割分担」に修正しました。

次に資料4 5ページ上段「学校教育」に関して2点の御意見をいただきました。まず、デジタル技術の活用については、学校間、職員間で差がでないようにすべき、との御意見をいただきました。枠外3項目目「教員のICT活用指導力の向上を図り」という表現の中に、御意見の趣旨がふくまれていると考えておりますので、字句の修正はしておりませんが、文章の順番を整理しております。

もう1点、優れた民間の力を教材として活用することは有効であるが、教師が学習の目標を明確にして実施することが大切だという御意見をいただいております。学校教育の2項目目の2行目から、「学習目標を明確にした民間活用等を図り、授業力や教師力を向上させます」という表現に改めさせていただきました。

資料4 5ページ中段「地域とともにある学校」について1点御意見をいただきました。

「コミュニティ・スクール」を「地域とともにある学校」に変更する理由を説明できるように、という御意見です。これにつきましては、学校運営協議会だけでなく、学校を地域コミュニティの拠点として位置付けていることや地域全体で子供の学びや育ちを支えるという趣旨で変更したものでございます。これは内容の修正の御意見ではありませんので、変更した箇所はありません。

次に、資料4 5ページ下段の「教育環境整備」について1点御意見をいただきました。

学期制なども含め、大きな制度設計として新しい学校づくりを考えていくことも大事ではないか、という御意見でした。これについては、3項目目 新しい学校づくりの取組の後に、「時代の変化に対応した質の高い教育を実現するため、常に新たな視点で教育の在り方を見直していきます」と追加しました。また、教育施策の継続的な検討という意味で考えますと、資料4 1ページにお戻りいただき、上段「一人ひとりの命を尊重し、豊かに伸ばすひとづくり」の枠内4項目目で、「適時適切な対応ができるよう、今後も継続的に検討し、教育施策に反映させていきます」と総括的に記述している中に含まれると考えております。

以上、資料1で御説明した主な修正箇所と、資料2で御説明した前回の御意見を踏まえた修正箇所のほか、ところどころに修正を加えておりますが、ただ今御説明した以外の修正箇所につきましては、言い回しを簡潔に、また、分かりやすく変更するなど、全体のバランス等を勘案して修正しているところでございます。

最後に、資料5を御覧ください。教育大綱及び教育振興基本計画策定スケジュールについて御説明します。

教育大綱については、令和5年度から教育振興基本計画と一体的に進めるため、教育振興基本計画の改定に先駆けて、計画の方針の根幹部分となる教育大綱の改定作業を進めてまいりました。教育振興基本計画については、資料5の右側の流れに沿って、本年2月から11月までの間で有識者会議を5回開催する予定でございます。教育大綱と教育振興基本計画は整合を図る必要があることから、本日一旦取りまとめさせていただく教育大綱の改定素案については、7月に予定している来年度第1回総合教育会議において、有識者会議の検討等を踏まえて、修正の必要があるかどうかなどを御議論いただくことになると考えております。

その後、教育大綱、教育振興基本計画のそれぞれの素案に対して、9月から10月頃、市民意見聴取やパブリックコメントを実施した後、教育大綱については、第2回総合教育会議で確定させ、教育振興基本計画については、12月の教育委員会定例会において議決を経て確定させる流れとなっております。

説明は、以上でございます

○守屋市長 ただ今、資料1から資料5まで通しで説明をいたしました。内容は前回の意見をどういうふうに反映したかというところがポイントだと思いますが、こちらについて、前回発言した趣旨、改めて教育大綱全般について意見交換を進めたいと思いますが、何か御発言はございますでしょうか。

一言ずつ順番に御発言をいただきたいと思います。吉田委員から時計周りに順番に一通り御発言いただけますでしょうか。

○吉田委員 前回の意見を入れていただいてありがとうございます。また、改めて読み返して気になるところがいくつかありますので、お聞きしたいなと思いました。

5ページ「学校教育」のところですが、民間活用をすることが授業力を高めるというように理解できるのですが、授業力を高めるのは教員の授業力ではなく小田原市全体の授業力を

表しているのか、民間活用することによって教員の授業力が高まるという理解なのか文章の意図が「学習目標を明確にした民間活用等」とあり、私自身理解がちょっとできないです。教員への研修等の充実は、授業力や教師力を向上させると思うのですが、学習目標を明確にした民間活用は授業の質を高めるというところにつながるのではないかなと思いました。ちょっと授業力の意味の捉え方が違うのかもしれない。

それから学校教育で、教員への研修等の充実はもちろん必要ですが、教員免許状更新講習が発展的解消ということで一時ペンディングされるようなことになっております。教員が学び続けることがとても必要ですが、免許状更新講習が中止というか発展的解消をされる理由の一つに、講習を受けづらいとか受けるのが大変だというのがあったと思います。教員が学び続けられる環境を作っていくということも必要なのではないかと思っておりますので、学校教育の質を高め授業力を高めるのも大事ですけれども、その授業力を高める先生方を支える環境というか、先生方が学び続けられる環境を作っていくということも根底には必要なのではないかなと思いました。どこに文章を入れろというような提案ではないのですが。

それから、「教育環境整備」というところで5ページですが、学校施設について述べているところですが、2行目に必要な改修等を計画的に実施し、より良い教育環境を継続的に提供してまいりますとありますが、子供たちが学び生活する場であるということにおいてより良い環境を継続的に提供していくことにつながると思うのですが、地域コミュニティの活動の場としてまた避難所としての役割を果たすという重要な施設であることが間に入っています。地域コミュニティの活動の場とか災害時に避難所としての重要な役割を果たすということにより改修が必要だとすれば、より良い教育環境を継続的に提供していくためではなくて、地域の中核というか、住民のよりどころとしての施設整備をしていきますとか、そんなことにつながって、二つのことをまとめたことによって文章が長いですし、少し結論と違ってきていないかなと思いました。

一番下の行、「教育の在り方を見直していきます。」とありますが、質の高い教育を実現するため、というところに先生方の教師力が求められるのではないかなと思っていて、教育の在り方ですと大きな枠組みですとか仕組みとか考え方とかになります。そこに一番大切な先生方の力を伸ばしていく取組というかそういうことを入れる必要があるのではないかと思いました。うちの学校の幼稚園教諭も教員免許状の更新講習を神奈川県幼稚園協会と一緒にやらせていただいている、なかなか研修自体も内容的にはどういうものが役に立つのか悩みですし、実際受ける先生も御苦労だったと思いますが、それがやはり発展的解消されるにしても先生方が学び続けられる環境というのはしっかりと確保しながら、先生方が生き生きと教えられるような環境づくりをしていくというのが何よりも必要ではないかな。これを読みますとその視点というのがどこにあるのかな。先生方にあれやれこれやれとか言っていますが、ちょっと大変かな。教育施策全体では先生方の負担が軽くなるようにということをしているのは存じ上げておりますが、それが少し教育大綱に入ると良いのではないかと思えました。いくつか申し上げましたが、基本的な考え方はそのところです。

よろしく願いいたします。

○守屋市長 吉田委員からいくつかの論点が示されましたが、事務局いかがでしょうか。

○教育総務課長 ありがとうございます。大きく4点御意見を頂戴いたしました。

はじめに5ページの「学校教育」の二つ目の学習目標を明確にした民間活用授業の質を高めるという要素とその後の授業力や教師力というところに上手くつながるかという。この表

現ですが、文章の途中で質の高い教育活動を行うためとはなっていますが、文章のバランスの面で最後の熟語の部分で授業力教師力のつながりの部分は少し整理させていただきたいと思えます。

もう1点、この項目の中で教員への研修等の充実のところ、教員免許状の更新講習のところに触れられて、教師が学び続けられる工夫、先生を支えるということの視点での御意見をいただきました。どういった形で表現として加えられるかというのは検討させていただいて御意見をできるだけ組みさせていただきたいと思っております。

5ページ下段の「教育環境整備」に2点いただきました。最初の項目のところで地域コミュニティに防災という要素を入れたことにより最後のより良い教育環境を継続的に提供ということとしっかりつながらないということもありますので、これは確かにおっしゃることも分かりますので、整理させていただきたいと思えます。

最後の項目で追加したところですが、質の高い教育の中で教師力についての御指摘をいただきました。「教育環境整備」の部分は基本的には在り方の検討の部分では広い検討が入りますが、施設面にフォーカスしているということもありますので、教員の研修とか支える部分の要素が入れづらい部分もあると思えますが、ちょっと良い表現ができないかというのは検討させていただきます。

ありがとうございます。

○吉田委員 良く分かっていただいたと思えますので、分かりづらくお話ししましたがありがたいです。よろしく願いいたします。

○井上委員 教育大綱ということですので、上手にまとまってきたかなと思えます。一つ一つには気になるところはないのですが、1点重点方針の中に「学ぶ力」、「学校教育」の中に職員間で差が出ないようにしていこうということ、デジタル技術の活用を進めていこうとか学び合う力を高めようとか項目がいくつか出ていますが、結果的にそういうものを目標にしておりますが、学力を伸ばしていく点について最終的に児童生徒の学力をどこまでもっていくのか、今の時点では大綱では大きな意味での目標が書いてあればいいのですが、最終的に、小田原の子供たちの学力を上げていくことの部分と学ぶ力を育むというよりも学習目標を具体的に挙げられるような項目があったら良いかな。知・徳・体の中で学力というものを打ち出していくものがあるとより具体的なものが出てきて、それに伴うやらなければならないものが出てくるのかなというのを感じましたのでお話しさせていただきました。

○教育指導課長 学ぶ力や教職員の資質向上の件で具体的な取組のお話しですが、現在市の総合計画ですとかこれから検討する教育振興基本計画の中には具体的な取組を示していかなければならないのかと考えております。現在、総合計画の中でもICTを活用した教育の充実、またステップアップ調査を基にしたエビデンスに基づいた授業の質の向上、またSTEAM教育の検討といったものを具体的な取組として掲げながら取り組んでいく予定でございますので、大綱ができあがった後、教育振興基本計画の中で示させていただきたいので御理解いただければと存じます。

○守屋市長 正に教育大綱の原案が固まると教育振興基本計画に入っていきますが、総合計画を今年の4月からスタートさせるのですが、どういう社会を創っていくのかということと、一方であまりにも抽象的な表現ばかりだと具体的な施策として評価がしづらいので、そこは数値目標、KPIを目標とする構図になっていて、ここの関係性というのは、教育振興基本計画の中でも出てくるのではないかと感じておまして、市民に対して小田原の教

育の姿勢を示しながら、進捗管理ができるような体制を作っていくことが必要なと思っております。

一方で学力はどうか分かりませんが、総合計画を作る中で、実際に取れるデータと取れないけどこういう指標があったら良いよねというのがあったりして、そこは実務上悩ましい作業に実はなっていて、難しい作業だからやめてしまうのではなくて、その中で単なる数字ではなくて、そこら辺の努力は必要なと考えております。

それでは菱木委員初参加で先ほど何でも言って良いよと言われてと言うことですがいかがでしょうか。

○菱木委員 大綱は根幹を成すものなので、細かく示し過ぎてしまうと、自由度がなくなって反対意見が噴出したり、逆に大ざっぱすぎると何も分からなくて何も動けなかったりするんで、バランスを取りながら作り上げていくしかないと思います。それから、吉田委員もおっしゃっておられましたが、学生の学力を高めるには教える側の能力も高くなくてはならないと思います。私が大学の教員をしていた時は、大学に学生が教授・准教授・講師の授業を評価するシステムがありました。教え方が悪かったり、情熱がない教師を排除するためでした。学生は熱意ある教師の講義は真剣に聞き、テストの平均点も良いというデータを基に作ったシステムのようなものでした。そのおかげなのか、私の母校の国家試験の合格率は、高値を維持し、在学生の父兄からの大学の評判も良好でした。このように、システムというのは教育の面でも大事なもので、学校の先生の評価やレベルを維持するシステムを整える必要があると思います。科目ごとに先生が変わって教えるという専門性を生かした授業が始まっているそうなので、小学校の先生は全ての科目を一人でやってきたのが最近が良い方向に向かっていると思います。今般のように、コロナがまん延してしまうと先生たちがレベルアップを目的とした教育を受けることができないので、ICTを使って学生からも先生からも高評価の先生の授業を見学したり、その録画をオンデマンドで見たりできるようにすると良いと思います。

どこの学校のどこの先生でも同じ基準、レベルになるためには最低限のレベルをICTを使って表示していくということが重要と考えますが、今後施策にどのように反映されていくのでしょうか。

○教育指導課長 ICTを活用した授業や学習の在り方というのを4月から始まったGIGAスクール構想に基づいて本市でもスタートしたところです。まだ1年目ですので、十分な活用に至っていない部分もありますが、そういった活用をしていくことで、計画以上に子供たちのスキルが上がってきているということと、教職員も積極的に授業で活用しているところです。

教育委員会としては現在3年計画で学校に示しているところでして、1年目には子供たちが授業の中で練習問題やインターネットを活用したり、また、来年度に向けては教師がICTで課題を投げかけ、子供たちがそれを学習端末の中で回答していくとそういったことで他の子供たちとの協働的な学びを実現していく。そういった段階を経ながら3年後には相当なICTを活用した授業が展開できるように進めているところでございます。

こういった学校休業の状況もありますので、こういった時こそ学校と家庭との中で端末を用いてやり取りをしながら、休みではありますが、学習が停滞することがないように活用しております。

○菱木委員 大綱を作るのにこれだけのひとが集まってこれだけのエネルギーを使って

作っているのに、私は患者さんに「先生は教育委員になったんですね。」「教育委員って何をしているんですか。」と聞かれます。せっかくこれだけの人が集まって英知を結集して教育大綱を作っているのに市民に知られていないのが残念ですし、そもそも、学校の先生が理解しているのか不安にかられます。できれば市長からアピールしていただけるとこの会場にいる皆さんの思いも伝わるのではないかと考えております。

○守屋市長 最初の菱木委員の発言では、子供たちのICT教育というのは随分浸透しており、この2年間いろいろなトライをしてきたので、教員の質の向上のため、教員の学びにおいてもICTのスキルを上げると同時に学ぶ機会を確保するために取り入れたらどうかという意味も含まれていたかなと思います。教員の学ぶためのITCについてはどのような考えを持っているのでしょうか。

○教育指導課長 教職員の研修、市立の教職員は県費負担教職員ですので、基本的な研修のプログラムは県で作られております。そういう意味では、まだ集合研修という形が多いのですが、コロナ禍ということもあって、学ぶ機会を逸してしまうということではなくて、リモート研修ですとか、後ほど動画配信されるものをいつまでの期間で見ることによって研修が成立するような形をとっていただいております。それが総合教育センターから配信されるものがありました。そういった研修の機会はICTを活用することで確保されているのかなと考えております。まだまだそういったことがスタートしてここ1、2年ですので、もっと効果的な研修の在り方が出てくるかとは思いますが、そういう意味では現在まで行われている免許更新の講習制度もほとんどが今オンデマンドで動画を見れば講習を受講できることとなりますので、そういったことが広がってきているのかなと考えております。

○守屋市長 一人ひとりの状況に応じて最善の方法がとれるかなと思いますので是非お願いします。

2点目に教育大綱ができたので周知については、行政計画全般に言えることでして、一生懸命作るのですけれども作ったあと行政の職員のためだけの計画になってしまっていて、すべての施策にあって、そこは本当に分かりやすく市民に伝え共有していくことが大切だと思いますので、総合計画で言えば、動画は作成しているんですね。総合計画は最初から字と数字ばかりで何も伝わらないという御意見をたくさんいただいておりますので、子供からイラストや作文をもらったりしておりますので、双方向の取組をいろいろな分野でトライしているのですが、教育大綱にしても伝え方をもう1工夫、2工夫する必要があるのかなと改めて感じましたので、事務局でも是非今後検討してまいります。

○益田委員 質問が2点と何点か意見を述べさせていただきます。

「地域とともにある学校」にも「家庭教育支援」にも「行政」という言葉が入っている。これは今まで入っていなかったと思うのですが、なぜ行政という言葉を入れたのか。その気持ちを行政がどういうふうに関わっていきたいのかという姿勢を知りたいのと、学校を地域コミュニティの拠点と位置付け民間事業者を含めたあらゆる主体と書いてありますが、ちょっと私の中でイメージが民間事業者のイメージがつかないので、どういったふうに地域コミュニティを持っていくのか、そのイメージを知りたいというのが質問になります。

それと「学校教育」のところ吉田委員もおっしゃっていましたが、学習目標を明確にした民間活用というところに違和感があって、学習目標を明確にした民間活用というところでも塾の目標みたいな感じを私の中では捉えました。説明を聞いたらそういうことかと思いましたが、ちょっとずれているような気がするので、ここはちょっと書きぶりを変えたほう

が良いかなと思いました。

それと、全体的に基本目標に生涯学習の視点が入ったのはとても素晴らしいことだと思います。ただ、今更ですが、生涯学びの枠外の所を読むとハード面からの生涯学習の視点が多いかなという気がしていて、文化芸術に触れたりスポーツ施設を使ったり、ハード面が大切なのではなくて、生涯学習は生まれたときから一生を終えるまでのことを言っていて生まれたときから家庭の中でも地域の中でも小さな日常の気づきみたいなのが学びにつながっていくのではないかなと思っています。「家庭教育支援」が今回入るということですが、保護者の方を見ていると、どうしても学校の算数・漢字というところに目が行っていて、日常で「霜柱が立ったね」とか「太陽が落ちるのが早くなったね」とか季節を感じたりする視点がなくなっているような気がするのです。私はそういう小さな日常の気づきから学びたい気持ちが生まれてくると思います。それを大綱に入れろとかではないのですが、「家庭教育支援」が入ったので豊かな心も保護者が持てるような家庭教育支援をしてほしいなと思ったので、生涯学習のところはもうちょっと気持ち的に学びたいという気持ちが生まれるようなみみたいなのがあったら良かったかなと思いました。

意見です。

○教育総務課長 ありがとうございます。最初にいただいた意見で、「地域とともにある学校」や「家庭教育支援」の中で行政という言葉が使われておりますが、小田原市ということ考えたときにプレイヤーとしては市長と教育委員会それぞれ別の行政機関とある中で、行政という表現の中で分野ごとに小田原市の中で意思決定の機関が分かれることがあるので、行政という表現にしてしておりますが、全体のバランスを見た中で違和感があるかどうかもう一度整理させてもらえたらと思います。

「地域とともにある学校」の中で民間事業者も含めたあらゆる主体の中で民間事業者ということも入れてございますが、公民連携というのをキーワードにしておりますので、従来のプレイヤーだけではなくて民間のノウハウの知見を使えるのではないかな。ICTの活用にしても民間の方が進んでいる部分もありますし、いろいろな分野での公民連携を図っていく中で、イメージとしては事業者、民間の企業を特化した形にはなっておりますが、民間事業者は地域の方も含まれるので、お仕事でやられている方だけが公民連携の対象ではないので、表現の仕方は難しいところかと思っています。枠内のところは、家庭・地域・学校・行政みたいなことを書きつつこちらでは民間事業者だけを出してしまったので、バランスの問題として民間事業者を含めたあらゆる主体ということではしょってしまったことにつながっていないのかもしれないので、少し表現の見直しができないかなと思っております。

「学校教育」の2つ目の項目の学習目標を明確にした民間活用で御意見いただきました。おっしゃるとおり公民連携含め民間のそういったノウハウや知見を使ったり学びに役立つものもあるけれども、学習目的はしっかりしなくてはだめだよという御意見。それをここに表現した時に民間活用等に学習目標を持つことが大事で民間活用することが大事みたいな表現に弱めてしまうのは違和感があると思うので、ここは教育の質の向上、授業力、教師力へのつながりなので、学習目標をターゲットにしたような表現ができないかと御意見を踏まえ少し検討させていただければと思います。

御意見ではございましたが生涯学習の分野はハード面に寄っているのではないかな。新しく加えた基本目標の「生涯学び活躍する環境づくり」として項目で出した中では念願かなってやっと整備された三の丸ホールを出してみたり、スポーツ施設を打ち出したり、ここだけ見

ると施設に寄った形に見えます。おっしゃるとおりソフトが大事だということがありますので、ここは項目に加えるかどうか御意見を参考に考えてみたいと思います。

それから「家庭教育支援」についてもたびたびの御意見でございます。前回の総合教育会議で総合計画のお話をさせていただいたときにも実際の事業が見えてこない。「家庭教育支援」はスタートになってくると思いますので、昨年度からの課題であります条例化を含めた検討をする中で支援の横ぐしを通していく中で、計画などの目に見える形でお示していきたいと思います。

以上です。

○守屋市長 最後のところというのは、コロナでいろいろな生活様式、学び方、働き方が変わってきて、どう良い方向に変えていくのかは実は小田原に移住者が増えているというのは報道されており事実そうですが、小田原で暮らすということが子供との関係、家庭との関係を改めて見つめ直すきっかけでもありますし、小田原の移住のプロモーションの動画が7本で構成されておりますが、親と子の関係にフォーカスしてそれを小田原でどう体現していくのかというものになっているので、良いきっかけにしながら生涯学習や家庭教育支援の議論ができればと思います。

○柳下教育長 意見が4点と質問が1点になります。普段から社会力を育むことを大事にしている、それを大きな目標としておりまして、その社会力を表す文言を入れていただいたということで、「子どもたち一人ひとりが充実した人生を送り、より良い地域社会を創るための社会力を育みます」というのは是非大事にさせていただきたいと思います。社会力というのは言葉が大きいのです。一人ひとりが充実した人生とか、地域社会を創るとか、その力をつけるために大切な要素がたくさんあるのですが、その中で私が特に大切にしているのが「関わる力」なんです。子どもたち一人ひとりが自分と人との関わり、ものとの関わり、様々な出来事との関わり、もろもろ関わりがありますが、関わりを通して自分を高める、自分たちを高める、自分と関わったものも高めることで豊かな人生を作っていっていただきたいと考えている。1点目は社会力、2点目に「関わる力」が入ってきたというのは分かりやすい私としてはありがたい。特に人との関わりを大切にする中で授業の中では学び合いということになりますが、そこも大事にしていきたいなと思っています。社会力と関わりということで2点お話しさせていただきました。

3点目はICTが入っていますけれども、今後ますます大事になってくると思います。私は担任をしている時に一人ひとりの子供の意見をノートに書かせて、それを自分で全部写し取ってコピーして、みんなの考えはこうですと渡しました。大変な労力ですけども、ICTを活用すると瞬時にできるんですね。自分と違う考えはこうだとか。違う考えとか同じ考えとか、そのような分析も一瞬でできて、学び合うためには非常に有効な道具だと思います。道具としてきちっとして使っていくのは、子供たちの学力や感性とかいろいろなものを育む時にとっても役立つと思うので、是非有効活用していただきたいと思います。コロナで学習用端末を持ち帰って様々な学習方法をやっていますよね。各学校にお任せではなくて、その方法をきちっと記録しておいて、お互い情報共有していきたいと思います。そういうことでICTの能力も高まっていくと思いますので、一つ良いことはパソコンを上手に使うのは若い人ですね。ITリーダーのもとに割と年配の先生が集まっていて、そこでOJT機能が発揮できているという学校もあって、それも一つの教員の資質能力の向上につながる良い面かなと思いますので、そういうことも情報共有していきたいなと思います。

4点目は吉田委員の話の中で教師の力をつけていくための研修の環境の話がありましたが、これも来年度のことになります。一番教師力を高めるのは授業研究だと思っておりますので、授業研究をただ一つの学校で終わりにするのではなくて、その学校が情報を公開してそこにどこの学校の先生が行っても良いというような形を創り上げていきたいと思っております。今までもやっていますが、それを計画的に年何回とかをやりたい。教師の力で子供たちの力を育むという話の中で学力という話がありましたが、計算力、漢字の力が高まったというのはテストをやれば分かりますが、そうではなくて読解力、数学的なものの見方、考え方というような目に見えない力を目に見える形で表してやって、子供に返していくような力、そういう力が必要になってきます。そういう力を身に付けていってもらいたいと思っております。

最後、質問になりますが、資料5のところですが、教育大綱が11月下旬に確定とありますが、その前にパブリックコメントが9月下旬から10月中旬となっておりますが、この期間で確定までに間に合うのか心配だったのでその日程の確認をしたいと思っております。

以上です。

○教育総務課長 手続的にはパブリックコメントでいただいた意見を全て受け止めるということではなく、考慮するということが制度上大切で、教育の関係でするのである程度意見が来るのかなと思っておりますが、それがそれぞれの御意見を整理して趣旨をくみ取る形でこの1月、2月の間で整理ができるのかなと思っております。市民合意のためのパブリックコメントの時期は9月か10月で設置しておりますが、もう少し柔らかい段階で市民の声が聴けないかということもかねがね市長から提案いただいておりますので、それについても検討しております。できるだけ市民の声に配慮していきたいと思っております。

社会力や関わる力に関わる場所は教育長のお考えの一番の中心部分として積極的に入れさせていただきまして、上手くバランスもとれているかなと事務局でも感じております。ICTや教師力のところは、教育長の御経験の中で御発言されたごもっともな部分だと思っておりますので、他の委員さんからもICTまたその教員力についてはいろいろな御意見をいただきましたので、それらを踏まえて整理させていただければと思います。

○守屋市長 総合教育会議の場でも発言させていただいたとは思いますが、ミナカ小田原に「おだわらイノベーションラボ」ができて開設した時にデジタル化の顧問の先生からイノベーション、イノベーションと言うけれどもコンピュータはイノベーションできないのですよね。イノベーションを起こすのは人間だけなんですよねという言葉がありました。私はある意味「すどん」と落ちたというか、結局子供たちや社会という課題がたくさんありますよね。例えばカーボンニュートラルがどういうふうに進んでいくか。コロナに対してどうしていくのか、次から次へいろいろな課題が出てくる中そのたびにコンピュータ技術やデジタル技術が進んでいくし、結局使うのは人間ですから、どういった人間が何の課題に対して疑問を持って、どういう発想をしていくのかというのは教育長がおっしゃる社会力を身に付けた人間がいろいろぶつかり合うことによって課題解決に導いていくことになるのかなと思うと教育への投資というか人材の投資というのが地域の力を育んでいく。もしくは社会的な経済活動も含めてわが国が発展していくためにも改めて重要な部分かなと思っております。そうするとそれを担っていく基礎自治体の役割は大きくて、全国1,750の基礎自治体があるのですが、それぞれの現場の中で地域において違いはありますが、大きな目標を持って取り組んでいくのが大事で、それをどう教育大綱に落とし込んでいって、それが基本計画につながり、現場につながり、施策につながっていくことを考えると、菱木委員の話ではない

ですが、この教育大綱の一つ一つの最後の言葉になります。言葉に込められた思いは改めて大切なんだと拝見して思っていたわけです。実りの多い議論ができて有り難いなと思えました。一通りそれぞれ一巡で御発言いただきましたが、それぞれの委員の発言を聞きながら改めて何か御発言がある方はお願いいたします。

○吉田委員 全体を見たときになんですが、基本目標の4項目についてそれぞれに学校教育だけでなく市民全体を対象に述べられていると思うのですが、2ページ目の「多様性を認め生かしていく教育のまちづくり」の枠の中は市民全体を視野に入れた形になっているかと思うのですが、下の説明が子供に偏りすぎていないかなと感じましたがいかがでしょう。

特に2つ目の「障がいのある子どもとない子ども」と書いてあって、インクルーシブ教育はもちろんここに入れて欲しいのですが、それだけではなくて大人が障がいだけでなく年齢とか性とかに関しての今の時代の多様性を生かした生き方とか関わり方を学び合う機会というのがどこかに入れれば良いなと思えましたし、全体的に下から2つ目の二宮尊徳も教育を行いますと書いてあるので、市民教育も指しているのかなと思えますが、流れの中で学校教育と読まれてしまうのかなと思うこともあるので、市民と子供から大人までと入っている考え方を生かした説明が多様性にあると良いかなと思ったのと、重点方針も同じように、「学ぶ力」というのも子供に特化して書いてありますが、「学ぶ力」は学校教育の成果を身に付けるだけでなく、生きていくということに関して一生学び続けていくような力や意欲を触発できるような市の教育大綱であって欲しいと思うので、子供だけではなく入ると良いのかなと今更ながらに思いました。他のところは子供から大人までいろいろ広く捉えていると思えます。

4ページの「関わる力」は、教育長がおっしゃるとおり子供の関わる力は大切なのですが、枠の中に「子どもたちが」と入ると子供に特化した重点目標にしているのか、意図的に特化しているのか、市民同士の高めていくような、そういうことにつながる教育大綱の重点方針になると良いのかなと私自身は思いました。関わる力は3点とも子供に特化した説明ですけれども、市民が関わる力を促進する教育のまちであると素晴らしいなと思いました。全体に感想を持ちましたのでお願いいたします。

○教育総務課長 御指摘ありがとうございます。今回特に生涯学習を明文化することも含め子供だけではなく学校教育だけではなく整理したつもりでございましたが、前の表現を生かしながらの中でそういった要素が足りない部分があったのかなと思えます。御指摘を受けまして子供という限定の仕方、それから基本的にはおっしゃるとおり市民広くという教育大綱であるべきだと思いますので足りないところがあれば広げるような要素も含めて改めさせていただきます。

○守屋市長 先ほどのスケジュールにもありますように、教育大綱が固まってくると並行して教育振興基本計画の作成に入っていきます。教育大綱の確定は令和4年の11月になっておりますが、それも含めてもう一度事務局で説明をお願いします。

○教育総務課長 市長がおっしゃったとおり最終的には11月、年内に教育大綱と教育振興基本計画をまとめていきたいと思っております。本日多くの御意見を頂戴いたしましたので、一旦これも整理した中で修正を加えたものは委員に共有させていただいて、それを基にまた御意見をいただいた上で最終的には市長と調整させていただき、この時点での一旦素案をまとめさせていただきます。来年度の総合教育会議の中でも教育振興基本計画の有識者会議での意見も踏まえながら修正が必要であれば柔軟に対応していきたいと

思っておりますので合わせてよろしくお願ひいたします。

○守屋市長 改めてこの総合教育会議という形で素案のために総合教育会議を開くというのはスケジュール的に難しい状況ですので、個別にいただいた意見を反映させていただいて教育振興基本計画策定有識者会議の議論に進めさせていただきたいと思いますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○守屋市長 ありがとうございます。そのようにさせていただきます。では議題の(1)教育大綱(改定素案)については以上とさせていただきます。ありがとうございます。

若干時間もありますのでその他に移らせていただきます。何か今の議論も踏まえて直近の対応も含めて少し自由に意見交換の場を設けたいと思いますが何か御発言はございますでしょうか。

○井上委員 せっかくですからちょっと私の意見を述べさせていただきたいと思います。前回からもちょっと申し上げていることですが、どうしても子供の学力というところに特化してしまうのですが、コロナで中学3年生は入試を直前にして、果たして正常な入学試験ができるのかどうか、子供たちの学びが十分にできているのかどうかという心配がある中で、教員の先生方の指導力の話が出てきましたが、ここってちょっと外から見た目で言いますと先生方の学力、先生方が学んできた力というのは非常に高いものがあるのですが、教える力、自分が学んできたものはレベルの高いものがあるのだけど、教える力はどうかかなという部分に非常に疑問があって、子供たちを指導する学習指導の力がちょっと各学校や先生方でばらつきが多いのではないかと感じています。学校間での進路も違うし、子供たちに教える指導の内容も大分違ってきているところで、先ほど教育長からも研修、研究授業の話もでてきましたが、もっとその辺のところをやっていないと小田原市内の特に中学校の生徒たちの評価の仕方ですね、学ぶ状態が違ってきているから評価ももちろん違ってきている部分が出てきて、小田原の子供たちはその評価を持って神奈川県他の自治体の生徒たちと競争しているわけですね。そうなってくるとどうやったら小田原の子供たちの力を高めて競って堂々とやっていけるように出していけるのかということ、もう少し先生方の教えていく範囲、カリキュラムや指導力を高めることに特化していかないと、小田原の子供たちの学力は上がってこないと思います。具体性が欠けているし、小田原モデルを作って、極端な話ですが制度設計の問題もあります。学期制の問題もありますが、極論を言えば、中学生の中間テスト期末テストのような定期テストは小田原市内の中学校の生徒たちは統一テストでも良いのではないかと思うのです。同じ問題を作って同じテストをしてあげればより近い公平な評価が出せるのではないかと。難しいことだと思うのですが、最終的にそこに目標を持っていけばそれに近づいていくようなやり方を考えていけば、道筋があればどんなことをやっていったら良いのか分かってくるのではないかと思うので、いつか言いたいなと思っていたのでここで申し述べさせていただきました。

以上です。

○守屋市長 少し自由な意見交換の場にさせていただきたいので、今のよう発言でも結構ですので、教育長にコメントいただいても良いかなと思っておりますがいかがでしょうか。

○柳下教育長 いつも申し上げているように、社会力、子供たち一人ひとりが充実した人

生を送ってほしいと思っております。そこに付随して学力ということですが、考える、思う、感じる。そういう力は本当に大事にしていきたいと思いますが、だからといって学力が低くて良いわけがありません。全国学力・学習状況調査があります。小田原は全国の平均を見ると上下10パーセント以内だから同程度とは言えるものの、平均の9ポイント上か9ポイント下かというのは全く違うわけですね。私は、いつも思っているようなきちっと学習の本質ですね、そこと対話をして対話をしたことを友達同士で対話をしてより高めていくような授業をすれば学力全体が上がると思っています。ですから、中学全部統一テストをするしないでどのあたりにいるかは分かるということではなくて、それも一つの案だと思いますので検討していきますが、必ず上がるようなそういう授業を目指していきたいと思っております。そのためには先生の質を高める。そのためには研究授業だと思います。私の若い時にこんなことを言って良いのか、1学年5クラスくらいあると1学年で必ず研究授業をやりなさいと言うと年配の人は避けるのです。若い先生にやらせる。とんでもない授業でも周りの先生は良かったでしょって褒めにかかる。全く研究授業になっていないのです。それは絶対止めようと思って、一人ひとりが授業をやった時に自分だったらどういうふうすれば良かったかという視点に立って話し合っ、授業をしない先生たちも自分が主体者となって研修していく。そういう授業を目指しましたが、そういう研究はしていきたい。そうすれば学力も上がると思っております。井上委員さんと私は気持ちは一緒だと思っております。競争ではありませんが、小田原の子供たちに他にはない良い教育をしていくことによって学力もついてくると思っています。そういうふうにしていきたいと思っております。正しい答えになっておりませんが、本心です。

○守屋市長 本当に指導力、教える力というのはどうやって持っている力を引き出すかというのは非常に大きいなと思えました。個別な話になりますが、最近私の高校の恩師がお亡くなりになって、サッカーの指導をしていただいた先生ですが、小田原高校のサッカー部の先生でしたが、プロになった選手もいますけれども決して中学から飛びぬけて良い選手ばかりを集めているわけではないので、公立ですから、その指導力でそれなりの県大会でも優勝とかベスト4とか狙える組織を作っていくのですよね。それはまさに指導力だと思っていて、そこで学ぶ、教える力を引き出してくれる先生がいて、チームスポーツですので全体の底上げをしていくと本当にどんどんどんどん成長していくものだと私はそれ以降その先生の教えるを思い出しながらいろいろな勉強をしてきたなというのがあって、つい最近お亡くなりになったので、あの先生に出会っていなかったら、自分がサッカーをやっていなかったらみたいなこともずっと思い出しました。個人的なお話で申し訳ありませんが結局本当に人の力を伸ばす、眠っている潜在力とかですね、もちろんそれぞれの人間ですから個性があるのですけれども、そんな環境が整えられるように。その上で先生の評価と言う部分、世の中はどんなものにも評価がつきまとうわけですが、評価自身の一つの学問になるくらい難しく、そこら辺のやり方っていうのは一斉テストみたいなのも一つの手段ですが、この評価ってことは何かと何かを対比して優劣をつけるみたいなそういう評価も少なからずあるわけです。そこら辺を踏まえながら教育長からも何しろやれることを全部やっていくのだという決意があったと思っておりますので、今の考えを参考にしながら教育を進めていただきたいと改めて感じたところです。

なかなか普段議題があつて、総合教育会議では資料を見ながらやってきたので、なかなか本質的な話をする時間がなかったのですが、せつかくの機会ですので多少の時間はあります

ので、改めて御発言があればお願いします。

○菱木委員 私は医学部の教員をしていたので、その経験からお話しさせていただきます。医学部は最終学年になると実際に患者さんを診て考える病棟実習があるのですが、その実習の空いた時間にクルズスという講義をします。実習は1グループ6人で回るのでクルズスはわずか6人の医学生に対して講師や助教が教えます。まさに至近距離での講義なので学生には教員の教育の熱心さがもろに伝わります。そこで大学の事務局が人気投票を学生にさせるわけです。おかげで私は話の強弱を以前よりも付けられるようになり、学生の反応も良くなったので、教える面白さ、難しさを実感できました。

実際、海外の大学では、優秀な論文をたくさん書いても授業を面白くできない人は評価されず、講義が上手で学生にも分かりやすいと評判で、かつ優秀な論文を書ける人が高評価になるシステムが導入されています。ここ日本でも先生だけでなく学生からも高評価の先生が自分の講義のやり方や自身のこだわり等をオンラインで教師に伝えたりオンデマンドで授業風景を見せたりするのが教える技術の習得に有効ではないかと思います。以前テレビで見たのですが、ある有名な予備校ではベテランの先生が新人の先生の授業を別室のモニターで見ている、授業が終わるごとに改善点を指摘していました。口でただ図ABCと言うのではなく黒板上でABCを指す。重要なところは声のトーンを変えて。ジェスチャーを交えて等々非常に細かく同業者なりの指導をしていました。これを繰り返していけば、どの先生も学生に分かりやすく伝える技術がアップして良いのではと思いました。

○守屋市長 分かりやすく伝えるのは何度も発言しておりますが、市長になって1年8箇月になりますが、いろいろな施策をやっているけどどう市民に伝えるかというのを悩んでいるんですね。はっきり言って伝わらない。正に本当に発信をすればいいということではなくて、相手の心にどう届くのか、届いていないと伝わらないというのがありますので、そんなことがいろいろな現場現場であるのかなと思いました。

○吉田委員 うちの学校も授業をやっているのですが、やはりFD研修とかで全員参加で相互授業参観をして授業研究をすとか、今は遠隔授業が多くなっているので、遠隔授業を皆がアップしてそれぞれ見合っって評価感想を述べあって少し高めていくとか、そういうのをやっていますし、授業評価を学生からやってもらうのですが、授業評価を通じてベストレクチャー賞を出していくのです。以前は、ベストティーチャー賞みたいな形で人気投票のようになってしまいましたが、そうではなくてベストレクチャー賞をとった先生にみんなの前で授業をしてもらったり、授業を分かりやすくして、今の学生は90分ずっとしゃべっていたら途中で飽きちゃいますよね。どんなふうにしたら学生の評価が高くて、しかも成績、知識の定着もしっかりできるような授業になるんだろうというのは皆考えています。私が大学の頃は大学の先生の授業が分からなくて、偉い先生の授業は分からないんだなと思っていたのですが、それはいけなかったことみたいで、本当に分かる授業をしなければいけない。うちは短大ですけども。ただ、高校から入ってきてとても優秀で入ってきた学生さんもいるし、ギリギリで入ってきて学力的に試験を受けるとギリギリの学生さんもいますが、実習に出てどのくらいの子供と関われるか、周りに関わって保育を展開できるのかということその力はまた別で、化ける学生さん、成績があまり振るわなかったけど、実習にいったら素晴らしい実践ができる学生さんもいれば、成績は良いんだけど実習に行くと上手いかわなくて泣きの涙で何でだろうと本人も自信があったのに、現場では上手いかわらない人もいますので、テストの成績だけで社会で活躍する力というのは測れないんだなと感じています。

私自身も子供の頃から先生が大嫌いで、あまり良い先生に出会えなかったのかもしれませんが、私自身も間違えて教職に就かないようにと思ったり、就いてしまっていますが、教職は取らなかったのです。でも、教える仕事に就きたいと初めて思ったのが子供の小学校の先生で素晴らしい先生にお二人ほど出会いました。家庭訪問でも授業でも面接でも本当に子供のことを良く見てくださって人間性も豊かで、その先生が学力をがんがん伸ばしたかは分かりませんが、子供を見る目の温かさとか、その人柄とか教養とかに触れてこんなふうに人を動かせる人に関われるというのは教員の仕事なんだと初めて知りました。そういう先生のことを思い浮かべて教育現場にいますので、いろいろ大変かと思いますが、教える力もですが人間性とかそういう点を高められるような時間とか生活のゆとりがあると良いなと思いました。

○守屋市長 ありがとうございました。総合教育会議っぽくなりました。

○益田委員 今までいろいろな話の中でありましたが、学力というのは私も必要ではないとは言わないですけども、競争して関わっていくという力も大切かもしれませんが、ただやはりその波に乗れない子供が増えていて、その波に乗れる子は良いです。乗れる家庭は良いです。塾にも行けない、行かす力もない家庭、財力とかではなく、財力とは別として行かせる力がない家庭が増えていると思うのです。その部分をどうやって支援を向けるかって思っていて、本当に取りこぼされている子供が多く、増えているなど実感していて、先ほどから皆さんがおっしゃっているように教師の力というのはすごく大きくて、支援を必要とする子供たちも伸びる学力を伸ばす権利というものも持っているはずなのに、支援を必要とする子供たちはできることをやって、その子供が満足ならそれで良いよねという流れがちょっと私は見えていて、それがすごい違和感があります。

聞いたのですが、高校のインクルーシブの説明会で元気に通ってくれてれば良い。というニュアンスの発言があったことには違和感があって、そうではなくてその子供たちも関わっていく中で自分の資質も学力も上げられると思うのです。学力を上げるというのは力が必要で一人ひとりどうやったら学力が伸びていくのかというのをキャッチしていく。そういう感受性が先生の中で育ててもらいたいなど。それは支援を必要とする子供たちだけではないですが、学力持って伸びていく子供もそうですが、一人ひとりの伸びる観点をキャッチする力を先生たちに培ってもらいたいと思います。大学の勉強だとか、研修だとかそういうところではなくて、教育長がおっしゃっているように大人になってもいろいろなものいろいろな人とどう関わるのかという力の中で育まれていくと思いますので、その辺を忘れないでいてほしいと思います。

大学で仕事をさせていただいておりますが、親の言いなりで、小学校も中学校も幼稚園の時から習い事や塾をやってきました。大学に入って初めて自分で物事が決められるようになったという学生が多いのです。そういうふうになってほしくない。小学校でも中学校でも自分で自分のやることを決める子供を育てていきたいので、それは親でもあり家庭でもあり地域でもあり、そういう力を育てていくような教育であってほしいなど日頃から思うので、その辺を忘れないでいて欲しいと思います。

○守屋市長 私も大学で学生たちと何回か触れ合う機会がありました。ずっとオンラインだったのですが、最近少しずつ対面の形式が出てきてますが反応というのをどうとるのかというのは分かりずらくなっているなど。後で出てくるレポートや感想を見ると、こんな伝わり方をしてたのかと意外な反応だなと思ったりしていて、学生の触れたりする機会が最近

あるなと思っておりますが、社会が変わって家庭が変わってきている中での教育というのは社会全体の在り方ですね。そこら辺がどう対応していくのかというのを正に教育大綱の中に理念がどれだけ入っているのかなというところですが。

○柳下教育長 前回の幼児教育の話が出ましたよね。一つ思っていることは、小学校入学前に子供たちが幼稚園でも保育園でも小さい子供同士の関わりをたくさん持って友達を好きになる。友達の痛みを自分の痛みのように感じるし、喜びも自分の喜びのように感じる。そういう経験をたくさんしてきて欲しいと思いました。そういう子供は人を大切にすることができると思うのです。そこはうんと大事でそういう子供が育って行って先生になると。一人ひとりの児童生徒たちを大切にできる先生になりますよね。そういう先生がテストで80点取った子を見ても良くできたという見方ではなくて、この子が80点とるまでにどういうふうに頑張ってきたのか。90点100点にするにはこの子にどういうふうにしてやったら良いんだろうとそういう先生になると思うのです。それが指導で最も大事なポイントで、原点だと思っています。そういう見方をしている先生であれば、見えない学力も見えてきます。そういう授業をしていくと子供たちもやる気になって頑張る勉強しようとする。楽しくなる。その結果、学力が上がれば良いと思っています。そういう学びを通して全国学力学習状況調査も上がってくるはずだと考えています。テストの結果だけ上げるなら、小学校の授業の半分はテストの練習をさせなさいと言うと、上がると思います。それではどんな子供に育つか分からないわけで、根っこであるものは人を大切にできる子供を育てる。そのために自分も努力もする。そういう関わりを作ってほしい。関わる力と入れてもらってますが、ありがたいことだなと思いました。小さい子を育てることは本当に大切でうちの近所にも小さい子が何人もいてお母さんが幼稚園まで送っていく、その時に「さよなら」「行ってらっしゃい」ととっても良い感じで見てますが、そういうのはとっても大事で、スーパーにも良く行きますが、小さい子を連れのお父さんお母さんがいきなり「何やってるの」と言う人もいますが、そういう人は、人を大事にできないなと思うのです。小さい時にいっぱい経験を子供同士がお互いに好きになる、人を大切にするような関わりは大事だなと思いました。

○守屋市長 ありがとうございます。テレビをつければ信じられないような事件が毎日毎日起こって、どうなってしまうのかなと社会全体がねと思っておりますが、だからこそ教育の力というのは大切かなと思っています。

○吉田委員 「親ガチャ」って言葉がありましたよね。親のあたりはずれで子供の人生が決まってしまう。そうではなくて、社会の方で家庭も支えていかなければいけないと思うのですが、2ページにあるような多様性ということ世の中で大事にしているというのは、これから目指す世の中は一元価値ではなくて、いろいろな人を認めていくということで、これができる人だけが素晴らしいのではなくて、この人もあの人も輝けるような、一番声が小さい人の声も聞けるようなそういうふうな社会になっていこうということなので、子供たちが受ける教育の内容もそこに向けて欲しいし、ICT化も今は求められている学力と違うものも求められてくるようになってくるのかなと。私どもの学校でも、実習に出すのですがこの前先週の土曜日も関東地方の保育士養成している学校のセミナーをやらせてもらいましたが、現場が記録をパソコンで打って、ソフトを使って管理していくようになっていますが、学校の教育は手書きで漢字を間違えないような保育日誌の教育をしていくので、その辺を変えていかなければならないけどどういうタイミングでどう変えていこうかという話が出ています。これは、全ての教育に共通していることで、子供たちが出ていく社会でどんな能力

が求められているのか。この先の社会がどうなっているのかしっかりと教師が見つめていけないといけないと思うので、その辺の構想というのも社会の動きが早いから難しいのですが、やっていかないといけないくて、近頃の子供はマッチが擦れないとか、鉛筆が削れないとか。私はそんなことでできなくても良いと思うのです。私たちが子供の頃習わなかったことをきちんと勉強して、将来の社会に備えるような教育。子供に求められる力も、もしかしたらインターネットを通じたコミュニケーションが上手な人が求められてくるのかもしれないし、人間的な触れ合いがないと人間は動物ですから子供を育て子孫を残していくわけですからどんな子供になるのかということですから幼児教育では温かな人間同士の関わりとかは必要ですが、成長するにしたがってデジタル化される社会の動きをどう捉えて教育に落とし込むのか。なおかつ、人間性を失わない人間を育てていくのかはすごく難しいことだなと思いますので、やはり私なんかは古いので、多様性を認めた社会ってどんな社会になっていくのかは分からないのですが、一元価値ではいけないのかなとすごく感じます。私の友達が言ったことですが、自分の子供が鍛えさえすればオリンピック選手になれるとずっと思っていない。かけっこさせれば遅いなというのが分かるから。だけど、オリンピック選手は速いからオリンピック選手になりますよね。でも、勉強については、鍛えれば鍛えるほど誰でもできるようになると思い込んでいるのっておかしくないかな。その子は別のところに向いているのかもしれないし、学校教育の中の科目の中ですごく刷り込んでもなかなか上手くないこともあるのかなと。だめってことではなく、多様性を認めるということであれば別のことをその子にとっては探していくことが必要。大学時代に先生の話聞けばすぐに分かってしまう子がいて、皆何で試験勉強をするの。先生が言っていたじゃないというのですが、それくらい能力が違うのですよね。その子たちをせいので一緒に勉強させたら同じになっていくってということ自体が、人間を育てる時にしちゃいけないのかなとっていて、すごくまとまらないのですが、その子たちが生きていく社会はどうなるのかなと常に考えていかないといけないなと思っています。私自身の課題ですが。

○守屋市長 世の中の考え方って世代間はすごく出るのだなとっていて、ゲームって我々の感覚だと一人でコンピュータとやるものでしたが、今のゲームはチームで皆でやるらしいのです。聞いた話だと、ちょっと今ゲームははじめちゃったからと、ゲーム止めればいいじゃないか。いやはじめちゃったら止められないんだよ。皆でやっているから。サッカーのゲームが昔はやって、一人でやるのですが、今のサッカーのゲームは11人でやるということで、それが正にeスポーツの世界につながって、そうすると確かに実際に自分は速く走れないかもしれないけど、ゲームの中に自分を吹き込んで、友達を信用してパスをしながら作っていくという話があって、実際そういう世の中になってきているというのはある程度理解しておかないといけないのだなとっています。

総合教育会議では、なかなかこのような時間が取れなかったもので、教育大綱の話よりも議論が白熱いたしました。こういった意見交換も一つのヒントやアイデアがあるのかなと思います。すぐに何か政策が変わるかといったら違うかもしれませんが、今後も機会があれば、意見交換の場を持っていきたいと思っています。

そろそろ時間も迫っておりますので、その他としていろいろなお話いただきましたが、事務局から何かありますか。よろしいですか。予定した案件は全て終了いたしました。進行を事務局にお返ししたいと思います。

○教育部副部長 皆様、本日は、長時間にわたり貴重な御意見をいただきましてありがと

うございました。御意見を整理しまして、教育大綱（改定素案）を事務局でまとめまして、皆さまにお戻しして確認をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次回、令和4年度第1回総合教育会議については、7月頃の開催を予定しておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、令和3年度 第3回小田原市総合教育会議を終了させていただきます。
ありがとうございました。